

令和5年度 事業計画 『連携による自立』

【基本方針】『環境⇒社会⇒経済 木材産業を担う人財の学び場』

① 【環境】持続可能な木材産業の推進

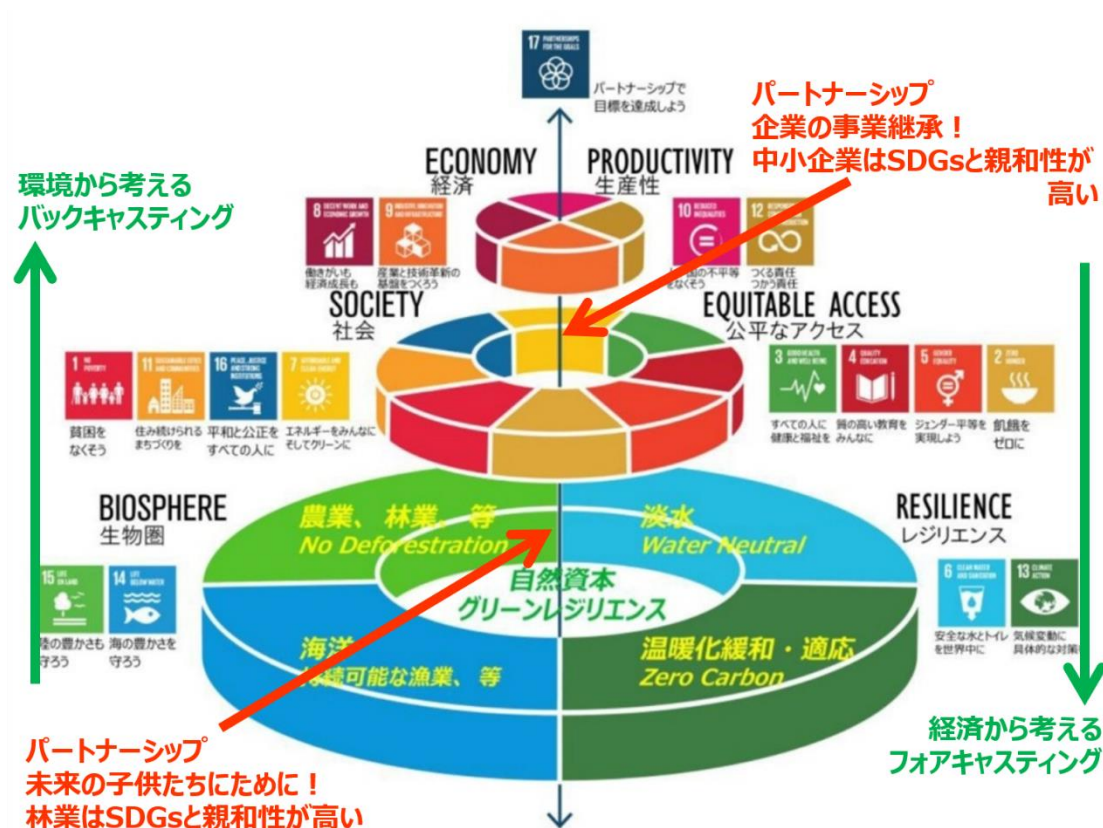
私たちは、森林資源を守り、維持するための取り組みを推進し、より良い自然環境を未来の世代に引き継ぐことを目指します。

② 【社会】地域社会との連携と貢献

私たちは、地域社会への貢献を重要な使命と考え、木材産業を通じて、地域の経済発展及び雇用創出に貢献するとともに、健康的な生活空間の向上にも取り組みます。

③ 【経済】人財育成による持続的な経済の創出

私たちは、『自ら考え挑戦する人財』育成のために、実践の学び場が重要と考え、様々な取り組みによって『社会的・学業的自己効力感』を認知でき、目標を達成する際に「自分ならできる、きつとうまくいく」と信じていることができる人財育成に取り組んでまいります。それにより、持続的な木材産業の発展につなげていきます。



※社会的自己効力感

社会的自己効力感とは、対人関係の中での自己効力感を指します。社会的自己効力感が高い人は、他者の気持ちに寄り添い、共感することができます。また、周りから敬遠されるような人とも「自分なら仲良くできるはず」とポジティブに捉え、良好な人間関係を構築することができます。

※学業的自己効力感

学業的自己効力感とは、学びや学習することに対する自己効力感を指します。学業的自己効力感が高い人は、難しいスキルやノウハウを習得する必要がある場面でも自らスケジュールを立てて学んでいくことができます。

【運営方針】

① 遂行行動の達成

労力や時間をかけて最後までやり遂げ達成できた経験は、「達成することができた！」という自己効力感の高まりに繋がります。また、日常部下を動かす立場であれば、自分が部下の立場になって動くことで、自社組織の見え方を変え、相手の立場を考えたコミュニケーションの気づきにつなげていきます。

② 代理的経験

自身が直接的な行動や経験をしなくても、自分と似ている他人の成功体験を観察することで「自分にもできそうだ」と思えるようになり、自己効力感を高めることができます。合同研修や会員同士のコミュニケーションによって気づきにつなげていきます。

③ 情動的喚起

ワクワク・ドキドキといった高揚感を感じることでできる環境に身を置くことで自己効力感を高めることができます。不安やストレスを感じるのではなく「君ならできる！」「よくやった！」とポジティブな言葉で励まされたり褒められたりする環境をつくり、挑戦する意欲につなげていきます。

【会長指針】

平成30年度～令和元年度に続き、令和5年度の静岡県木材青壮年団体連合会の会長に就任(予定)させていただきました。この責任ある役割を二度も引き受けることができたことを、心から光栄に思っています。私たち県木青連は、木材産業において持続可能な森林管理を推進し、地域の発展に貢献することを使命としています。この実現のために、私たち県木青連の重要な役割は、次世代を担う若手人財の育成です。

SDGs時代と言われる現在は、正解の無い不確実な世界になったともいえます。過去の成功事例から物事を考えるのではなく、未来のあるべき姿・理想を掲げて、リスクを共有した多くの人たちと連携して新しい価値を創造する時代になったということです。

リスク（RISK）の語源とは、「リズカーレ（RIS-CARE）」というローマ時代のイタリアの古語が語源です。海賊や岩礁をくぐり抜け、一攫千金を狙う船乗りを意味する言葉で「断崖絶壁を航行する」「危険を冒す」という意味をもっていたらしく、どうなるかわからないという、結果の不確実性という意味合いも含まれていたようですが、リスクを乗り越えて成功した人物が現れ、それが知れ渡ると、後にリズカーレは「勇気を持って試みる」という意味で使われるようになったようです。

県木青連の若い世代には、新しいアイデアや技術があり、多くの経験は将来の木材産業の発展に欠かせません。人間は不確実な状況におかれたとき、集中力や学習力を増大させるためにドーパミンの分泌量を増やすことがわかっています。私たちは、若い世代の同士として、自分たちを成長させるために熱意と情熱をもって「リスク」を楽しみ、共に成長してまいります。

最後に、私たちは歴史ある県木青連の伝統をしっかりと引き継ぎ、より良い自然環境を次世代に引き継ぐための活動と、地域社会との連携を大切に、地域の方々とともに、持続可能な社会の実現に向けて、一丸となって取り組んでまいります。

皆様のご支援とご協力をいただきながら、静岡県木材産業の発展に向けて全力を尽くしてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

令和5年度会長 鈴木 諭